

平成 26 年 5 月 14 日

上越市議会議長 瀧澤 逸男 様

新幹線・並行在来線等対策特別委員会

委員長 大島 洋一

新幹線・並行在来線等対策特別委員会の意見について（報告）

当委員会の設置に当たっては、下記のとおり目的が設定され、議会の意見を表明するとされていることから、委員会で協議して意見をまとめましたので報告します。

記

〈委員会設置の目的（発議案第 5 号新幹線・並行在来線等対策特別委員会の設置について）〉

北陸新幹線開業を見据えたまちづくりに向け、新幹線新駅及び新駅周辺の整備を推進するとともに、並行在来線並びにほくほく線等のあり方について調査研究し、議会の意見を表明する。

〈委員会における調査研究の概要及び意見〉

平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業及び並行在来線の開業まであと 1 年を切りました。平成 24 年 5 月に当委員会が発足後、並行在来線会社への国・県の支援スキームの発表、えちごトキめき鉄道㈱の経営計画発表、上越妙高駅名の決定、えちごトキめき鉄道㈱の 5 年の運賃据え置き発表、鉄道事業許可申請と許可、新潟県が新駅設置に調査費計上など重要な発表・決定がありました。

この間、委員会として、管内・管外視察を行い、えちごトキめき鉄道㈱の経営基本計画（案）などを調査し、さらに J R 東日本㈱、北越急行㈱、えちごトキめき鉄道㈱に上越妙高駅と新潟駅との間の優等列車存続など 4 項目の「J R 線・並行在来線・ほくほく線の利便性の向上等に関する要望書」の提出を行ってきました。

【新幹線新駅及び新駅周辺の整備推進等】

まず、上越妙高駅については、95%近く整備が進んでおり、また、新駅周辺の整備についても予定どおり進んでいます。周辺地区の商業業務施設等の立地については、今なお不透明です。

また、新幹線の高架橋や開業に伴う環境対策については、今後、調査検証が必要です。

次に、新幹線の列車の名称は速達型が「かがやき」、各駅型が「はくたか」に決定しました。しかし、「かがやき」が上越妙高駅にどの程度停車するのか、「かがやき」、「はくたか」の運行時刻などについては、未定であり今後の活動が必要です。

【並行在来線並びにほくほく線等のあり方】

並行在来線会社の経営計画並びに国・県の支援スキームについては、視察を踏まえた意見などを慎重に検討しました。しかし、今後も引き続き注視が必要です。

また、ＪＲ東日本㈱、北越急行㈱、えちごトキめき鉄道㈱に要望した以下４項目については、未だ回答がなく更なる活動が必要です。

- 1 北越急行運行列車の黒井駅停車を実現すること
- 2 北陸新幹線開業後、北越急行運行列車の直江津駅経由上越妙高駅まで乗入れを実現すること
- 3 新幹線開業後の上越妙高駅と新潟駅を結ぶ優等列車を存続すること
- 4 ＪＲ線や並行在来線、ほくほく線に相互に乗り継いだときにかかる初乗り運賃に対して割引を行うこと

〈参考〉

上越市議会として、新潟県市議会議長会並びに北信越市議会議長会に、次の要望事項を議案として提出し、議決の上、関係機関への要望書の提出が行われました。

- 1 長野～白山総合車両基地間の確実な完成及び白山総合車両基地～敦賀間の早期整備を図るとともに、大阪までの整備方針を明確にし、早期に全線整備を図ること。
- 2 新幹線新駅周辺の都市機能の充実や利便性向上のため、十分な支援策を講ずること。
- 3 北陸新幹線の金沢延伸により、新潟～北陸地域間の優等列車の廃止等の懸念があるが、県土分断や本県と北陸地方とのアクセスの利便性が低下しないよう、現在の優等列車等の存続を図るとともに、上越・北陸新幹線と在来線の直通列車等の運行を実現すること。
- 4 並行在来線の経営安定のため、鉄道・運輸機構の利益剰余金を活用した貨物鉄道線路使用料に関する調整制度の拡充が図られたところであるが、引き続き貸付料の活用や新しい財源措置、ＪＲからの協力・支援策など、地方負担の軽減を図るための新たな仕組みの構築や運行の在り方等について早急に検討を進めること。